

第3次平塚市食育推進計画
令和7年度進捗評価報告書

令和8年7月作成

目次

1 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進

(1) 健康行動と指標、目標値及び進捗	1
(2) ライフステージ別 市の主な取組及び事業	
ア 妊娠期・乳児期・幼児期(①～⑩)	2
イ 学童期・思春期(⑪～⑮)	3
ウ 青年期・壮年期・高齢期(⑯～⑳)	4
(3) 取組の結果	6
(4) ライフステージ別 取組の結果から指標達成につながる成果、課題及び次年度の計画	
ア 妊娠期・乳児期・幼児期(1-(1)～(7))	10
イ 学童期・思春期(1-(8))	10
ウ 青年期・壮年期・高齢期(1-(9)～(10))	11

2 地域の特性を活かした食育の推進

(1) 健康行動と指標、目標値及び進捗	12
(2) ライフステージ別 市の主な取組及び事業	
ア すべてのライフステージ(①～③)	13
イ 乳児期・幼児期・学童期・思春期(④～⑥)	13
(3) 取組の結果	14
(4) ライフステージ別 取組の結果から指標達成につながる成果、課題及び次年度の計画	
ア すべてのライフステージ(2-(1)～(2))	15
イ 乳児期・幼児期・学童期・思春期(2-(3)～(4))	15

本報告書内の番号について

- 「管理番号」 各政策分野の指標において、対象の年代順に振った番号。
例) 1-(1)、1-(2)、2-(1)、2-(2)
 施策分野
- 「市の取組」 「ひらつか健康・食育プラン21」冊子にある「市の取組」に振った通し番号。
例) ①、②、③

(表) 管理番号及び市の取組に対応するライフステージ

施策分野*	管理番号	市の取組	ライフステージ
1	1-(1)～(7)	①～⑩	妊娠期・乳児期・幼児期
	1-(8)	⑪～⑮	学童期・思春期
	1-(9)～(10)	⑯～⑳	青年期・壮年期・高齢期
2	2-(1)～(2)	①～③	すべてのライフステージ
	2-(3)～(4)	④～⑥	幼児期・乳児期・学童期・思春期

*施策分野 1 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進、2 地域の特性を活かした食育の推進

- 「事業番号」 本報告書内において、各政策分野について事業に振った通し番号。
例) ①-1、②-1、③-1、④-1、④-2
 「市の取組」

I 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進

(I) 健康行動と指標、目標値及び進捗

健康行動	指標		管理番号	現状値	目標値		R6 の値	R7 の値	担当課
					中間値 (R10)	最終値 (R15)			
食育に関心を持とう	食育に関心を持っている者の割合		1-(1)	66.1	82.0	90.0以上	—	—	—
	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	3歳児	1-(2)	週 13.3	週 13.5	週 13.7	週 13.4	週 13.1	健康課
	朝食を欠食する者の割合	3歳児	1-(3)	0	維持	維持	0	1.0	健康課
		5歳児	1-(4)	0.2	0.1	0	—	0.3	健康課
		小学5年生	1-(8)	1.3	0.7	0	1.6	1.0	教育指導課
主食・主菜・副菜を組み合わせ合わせたバランスのよい食事を食べよう	主食・主菜・副菜を組み合わせ合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている者の割合	3歳児	1-(5)	77.9	80	80.0以上	86.9	87.3	健康課
		20歳以上	1-(9)	69.4	72	75	—	—	健康課
食塩を摂りすぎないようにしよう	食塩を摂りすぎないように心がけている者の割合	3歳児	1-(6)	92.9	95	95.0以上	92.8	69.2	健康課
		20歳以上	1-(10)	68.5	72	75	—	—	健康課
よく噛んで食べよう	よく噛んで食べる習慣のある者の割合	3歳児	1-(7)	88.6	増加	増加	—	88.5	健康課
	なんでもよく噛んで食べられる者の割合	50歳以上	1-(11)	81.8	増加	増加	81.7	82.1	健康課

(2) ライフステージ別 市の主な取組及び事業

ア 妊娠期・乳児期・幼児期(①～⑩)

指標		管理番号	市の取組	事業番号	事業	担当課
食育に関心を持っている者の割合*		1-(1)	—	—	—	—
朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	3歳児	1-(2)	①母子健康手帳発行時の栄養相談	①-1	母子健康手帳発行時の栄養相談(初産婦必須)	健康課
			②妊娠(後)期アンケートからの支援	②-1	妊婦等包括相談支援事業(妊娠後期)	健康課
朝食を欠食する者の割合	3歳児	1-(3)	③妊娠期における健康教室	③-1	母親父親教室	健康課
			④産後における健康支援	④-1	こんにちは赤ちゃん訪問	健康課
				④-2	産後ケア事業 デイサービス(直営)ママはぐ	健康課
	5歳児	1-(4)	⑤乳児・幼児健康診査	⑤-1	1歳6か月児健診、2歳児歯科健康診査(集団指導・健康相談)・3歳児健診	健康課
			⑥乳幼児の食生活についての健康教育・栄養相談	⑥-1	赤ちゃん広場	保育課
				⑥-2	子育て支援センター事業 つどいの広場事業	保育課
				⑥-3	子どもの生活習慣病予防対策事業巡回教室(保護者向けリーフレット配布)	健康課
				⑥-4	祖父母のための食育(リーフレット配布)	健康課
				⑥-5	離乳食教室	健康課
				⑦-1		健康課
			⑦乳幼児の食に関する普及啓発	⑦-2	ホームページでの動画配信	健康課
食塩を摂りすぎないように心がけている者の割合	3歳児	1-(6)	⑧保育所、幼児教育施設による食育・給食等の提供	⑧-1	保育所における食育の推進	保育課
			⑨肥満を予防するための望ましい食習慣の普及啓発	⑨-1	子どもの生活習慣病予防対策事業巡回教室(保護者向けリーフレット配布)	健康課
よく噛んで食べる習慣のある者の割合	3歳児	1-(7)	⑩食を通じた歯と口腔の健康づくりの普及啓発	⑩-1	1歳6か月児健診、2歳児歯科健康診査(集団指導・健康相談)・3歳児健診	健康課

*指標「食育に関心を持っている者の割合」は、全ての取組及び事業がかかることとする。

イ 学童期・思春期(⑪～⑮)

指標		管理 番号	市の取組	事業 番号	事業	担当課
朝食を欠食 する者の割合	小学5 年生	1-(8)	⑪学校における食に関する指導及び給食の提供	⑪-1	学校給食の提供	学校 給食課
				⑪-2	食教育に関する普及啓発	学校 給食課
				⑪-3	食に関する指導	学校 給食課
			⑫学習指導要領に基づいた食教育	⑫-1		
			⑬生活習慣病予防のための健康教育	⑬-1	思春期講座	健康課
				⑬-2	児童健康教室(子どもの生活習慣病予防対策事業)	学務課
			⑭家庭への食育	⑭-1	親子食育推進教室	中央 公民館
				⑭-2	児童や親子を対象とした事業(料理教室等)	中央 公民館
			⑮地域とのつながりによる食育	⑮-1	地域の商店等と連携した料理教室	中央 公民館

指標		管理 番号	市の取組	事業 番号	事業	担当課
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている者の割合 食塩を摂りすぎないように心がけている者の割合	20歳以上	1-(9)	⑩適正な食習慣に関する健康教育・普及啓発	⑩-1	食の安全・安心に関する講座等の開催	市民情報・相談課
				⑩-2	高血圧予防の食生活に関する講話	健康課
				⑩-3	自分で作る!映えランチ	健康課
				⑩-4	健康づくりのための料理教室、食育講座	中央公民館
			⑪女性のやせに関する健康教育・普及啓発	⑪-1	母親父親教室	健康課
				⑪-2	思春期講座	健康課
			⑫生活習慣病予防・健康づくりの食生活に関する健康教育・栄養相談（青年期・壮年期）	⑫-1 ⑫-1	イベントでの食育体験・栄養相談	健康課
				⑫-2 ⑫-2	健康相談（ヘルスアップ相談、高血圧予防相談での栄養相談、女性の健康づくりプロジェクト）	健康課
				⑫-3 ⑫-3	高血圧予防の食生活に関する講話	健康課
				⑫-4 ⑫-4	食生活改善推進員養成・育成	健康課
				⑫-5 ⑫-5	自分で作る!映えランチ	健康課
				⑫-6 ⑫-6	★高血圧予防・重症化予防のための「減塩食品普及事業」	健康課
				⑫-7 ⑫-7	骨密度測定会	健康課
				⑫-8	健康づくり測定相談	健康課
			1-(10)	⑫-9 ⑫-8	カムカム教室	保険年金課
				⑫-10 ⑫-9	★平塚市フレイル予防（食・口腔）の普及啓発及び個別相談事業業務委託	保険年金課
		⑫-11 ⑫-10		健康チャレンジ普及啓発事業・健康チャレンジ地域活動支援事業	保険年金課	
		⑫-12 ⑫-11		★健診結果説明会	保険年金課	
		⑫-13 ⑫-12		糖尿病性腎症重症化予防のための病診連携事業	保険年金課	
		⑫-14 ⑫-13		糖尿病重症化予防のための健康相談	保険年金課	
		⑫-15 ⑫-14		★健診異常値放置者・治療中断者対策	保険年金課	
		⑫-15		骨密度測定	保険年金課	
		⑬適正体重を維持するための食生活・食習慣の普及啓発	⑬-1	連携協定企業（中北薬品）との連携	健康課	
			⑬-2	肥満予防・改善教室	健康課	
			⑬-3	母親父親教室	健康課	
		⑭低栄養を予防するための健康教育・栄養相談	⑭-1	高齢者の低栄養ハイリスク者対策	保険年金課	

指標		管理 番号	市の取組	事業 番号	事業	担当課
なんでもよく噛んでたべられる者の割合	50歳以上	1-(11)	⑳歯科疾患予防に関する健康教育・健康相談	㉑-1	成人対象歯科健康教室	健康課
				㉑-2	地域健康づくり支援事業(歯科)	健康課
				㉑-3	青年期・壮年期における歯や口腔に関する健康相談	健康課
				㉑-4	高齢者の歯や口腔に関する健康相談	保険年金課
			㉒オーラルフレイルを予防するための健康教育	㉓-1	フレイル対策推進事業	保険年金課
				㉓-2	健康チャレンジ普及啓発事業・健康チャレンジ地域活動支援事業	保険年金課
				㉓-3	カムカム教室	保険年金課
			㉔健康診査・歯科健康診査の定期受診勧奨	㉕-1	成人歯科健康診査	健康課
				㉕-2	特定健康診査	保険年金課
				㉕-3	後期高齢者健康診査	保険年金課
				㉕-4	35歳健康診査	保険年金課

(3) 取組の結果

★新規または拡充した事業

事業 番号	事業	取組の結果
①-1	母子健康手帳発行時の 栄養相談 (初産婦必須)	相談件数 475件(うち初産婦実施率98%) →適切な体重管理等の相談に応じ、妊婦の不安軽減と望ましい食習慣の啓発に 取組むことができた。
②-1	妊婦等包括相談支援 事業(妊娠後期)	・アンケート 送付数1,057件、回収数653件(回収率 62.0%) (令和7年4月から令和8年1月までの件数) ・令和7年12月から電話へ変更 201件(令和7年12月から令和8年3月までの件数) →アンケートから必要な方に電話や面談等を通じた支援を行うことができた。
③-1 ⑭-1 ⑮-3	母親父親教室	・快適マタニティライフ編 参加人数:89人(うち妊婦48人、パートナー40人、その他家族1人) ・あかちゃん誕生準備編 参加人数:730人(うち妊婦366人、パートナー363人、その他家族1人) →妊娠中の望ましい食生活に関する講義や、妊娠中の過ごし方、口腔衛生について啓発できた。
④-1	こんにちは赤ちゃん訪問	訪問件数 1,297件 →親子の心身の状況や養育環境などの把握や助言を行うことができた。
④-2	産後ケア事業: ディサービス(直営) ママはぐ	実施回数 12回、参加人数:母131人(児132人) →管理栄養士が用意した昼食を提供し、産後の身体的回復と心理的な安定を促進できるよう支援できた。
⑤-1 ⑩-1	1歳6か月児健診、 2歳児歯科健康診査 (集団指導・健康相談)、3歳児健診	・1歳6か月児健診、3歳児健診 リーフレット配布数2,739枚、栄養相談実績 643件 →幼児期の望ましい食事量や噛むことの大切さを掲載したリーフレットを配布し、 啓発できた。 ・2歳児歯科健康診査(集団指導・健康相談) 実施回数24回、受診人数747人、栄養相談実績212件 →集団指導によって歯磨きの大切さと朝ごはんの大切さを啓発することができた。
⑥-1	赤ちゃん広場	22回開催、234組が参加。 うち2回保育課栄養士による離乳食講座を開催し、30組参加。 →離乳食の大切さや進め方等を伝えた。個別相談の時間を長めに確保することで、参加者の不安等を払拭する機会にすることができた。
⑥-2	子育て支援センター 事業 つどいの広場事業	・食育に関する講座 子育て支援センターにて9月に開催。 ・食事・栄養の相談 子育て支援センター:134件 つどいの広場「ももこ」:58件 つどいの広場「きりんのおうち」:28件 つどいの広場「どれみ」:59件 つどいの広場「ぼけっと」:5件 つどいの広場「ここにくらす」:15件
⑥-3 ⑨-1	子どもの生活習慣病 予防対策事業 巡回 教室(保護者向けリー フレット配布)	実施回数34件、参加人数937人、リーフレット配布枚数1,710件 →園児には食べ物の消化吸収の仕組みや食べ物の働き等を巡回教室にて、保護 者には規則正しい生活習慣と食習慣の大切さ等をリーフレット及び動画配信に て啓発することができた。
⑥-4	祖父母のための食育 (リーフレット配布)	リーフレット配布施設数8園、配布枚数787枚(8園のうち2園はデータ配布) →幼児期と高齢期に共通の望ましい食習慣等についてリーフレット配布にて啓発す ることができた。令和7年度は新たにデータでの配布を選択できる形とした。
⑥-5 ⑦-1	離乳食教室	5、6か月、7、8か月、9か月～1歳6か月の全3種類の離乳食教室を開催した。 ・5、6か月児:12回/年(265人) ・7、8か月児:8回/年(109人) ・9か月～1歳6か月児:6回/年(86人)。 →それぞれの月齢の離乳食についての講話、実習、試食を行った。また、保護者に向 けてバランスの整う食事のとり方や家族の健康についての講話も行った。

⑦-2	ホームページでの動画配信	就学前児を想定し朝ごはんクッキングの動画を配信(全4種類)。 合計視聴数409回。 →動画というツールを活用し、簡単に作れる朝ごはんクッキングを広く啓発できた。
⑧-1	保育所における食育の推進	食育講座の実施 公立園8園 144回 4,723人 クッキングの実施 公立園8園 247回 6,771人
⑪-1	学校給食の提供	小学校28校(187回) 中学校15校(1,2年170回・3年150回)
⑪-2	食教育に関する普及啓発	・学校給食献立クッキング教室 令和7年7月24,25日 参加者小中学生25人 ・学校給食展 令和7年7月30日 参加者延べ211人
⑪-3 ⑫-1	食に関する指導	実施回数:小学校28校(2,435件)・中学校15校(975件)
⑬-1 ⑰-2	思春期講座	栄養に関する講話の実施校数 6校、参加延人数721人 →中学生を対象に、健康な体づくりのための食生活について講義を行い、適正体重の大切さや成長期に摂って欲しい栄養について啓発できた。また、市内全中学3年生家庭数に「健康的な体の作り方」を目的としたテキストを2,330枚配布した。
⑬-2	児童健康教室 (子どもの生活習慣病予防対策事業)	参加人数:児11人とその保護者 →令和7年12月21日(日)実施。小学校4年生の肥満度が高い児童を対象に、医師や栄養士、運動指導士による健康相談・運動指導を行うことができた。
⑭-1	親子食育推進教室	小学生とその保護者を対象に親子で楽しくクッキングを実施。 4地区28人参加
⑭-2	児童や親子を対象とした事業 (料理教室等)	親子料理教室やお菓子作り教室など、児童や親子を対象とした事業を実施。 28事業 延べ732人
⑮-1	地域の商店等と連携した料理教室	地域の商店等と連携した料理教室を実施。 5事業 延べ219人
⑯-1	食の安全・安心に関する講座等の開催	みんなの消費生活展:参加人数371人 →消費者団体と協力して、食品添加物、野菜摂取の大切さ、エシカル消費などを展示、説明することにより、食に関心を持つように啓発することができた
⑯-2 ⑱-3 ⑳-3	高血圧予防の食生活に関する講話	食生活改善推進団体に委託している「生活習慣病予防教室」で、高血圧に関する講話を実施した。4地区の公民館で42人が参加。 (20代2人、30代1人、40代3人、60代8人、70代19人、80代9人)
⑯-3 ⑱-5 ⑳-5	自分で作る!映えランチ	食生活改善推進団体に委託している「肥満・痩せ予防生活習慣病予防教室」で「自分で作る!映えランチ」を題材とし、食事バランスや生活習慣病に関する講話を行った。2回開催、延33人参加。 (30代2人、50代3人、60代9人、70代11人、80代5人)
⑯-4	健康づくりのための料理教室、食育講座	・適正な食習慣に関する健康教育・普及啓発に関する事業を実施。 8事業 延べ181人 ・食生活改善推進団体と連携した料理教室や薬膳茶に関する講座など、健康を意識した事業を実施。13事業 延べ188人
⑱-1 ㉑-1	イベントでの食育体験・栄養相談	・市内で開催されたイベントへ出展 塩分チェックを行い減塩の普及啓発を行った。健康・食育フェスタ2025(53人)、神奈中周年祭(52人)、日産車体フェア(90人)
⑱-2 ㉑-2	健康相談(ヘルスアップ相談、高血圧予防相談での栄養相談、女性の健康づくりプロジェクト)	・健康相談 毎月2回の定期相談を基本とし、個別調整での開催を含め27回、延43人に実施。年齢や生活背景に応じた運動・食事の紹介や生活習慣改善の見直し等の助言を行った。 →定期開催としていたが、令和8年度から相談希望者と個別に日程を調整して実施する体制に変更する。 ・運動体験教室 スキマ時間でちょいトレははじめませんか～女性の健康づくり編～ →運動の他、女性に多い病気やホルモンについて、運動の効果や不足のリスク等についての講義も行った。 20～64歳の女性を対象とし、1回/年開催。合計10人が参加した。

⑬-4 ⑭-4	食生活改善推進員養成・育成事業	養成講座は8回実施、延66人参加。育成事業は役員会や定例会に延437人参加。
⑬-6 ⑭-6	★高血圧予防・重症化予防のための「減塩食品普及事業」	市内スーパー（しまむらストア）にご協力いただき、減塩の普及啓発を行った。13店舗でポスター掲示、減塩商品への平塚市血圧プロジェクトロゴマーク貼付を行った。店舗アンケート結果より、減塩食品の売上増加がみられた。
⑬-7 ⑭-7	骨密度測定会	超音波踵骨測定装置で骨密度を測定し、YAM（若年比較）で評価。測定後、保健師と管理栄養士で結果の説明、生活習慣改善のためのアドバイスを実施した。20歳以上を対象とし、3回/年（各回80人定員）実施。合計231人が参加した。
⑬-8	健康づくり測定相談	血圧測定、体組成測定、骨密度測定、塩分チェック、尿ナトリウム比の測定。測定終了後、保健師または管理栄養士が各種結果の説明と生活習慣改善のためのアドバイスを実施した。血圧が高かった方や生活習慣病について心配がある方に対しては、結果の詳細説明や健康相談の案内、受診鑑賞など個別の対応を行った。20～64歳を対象とし、5回/年実施。123人が参加した。 →若い世代にも健康について考えてもらうきっかけを提供することができた。
⑬-9 ⑭-8 ⑮-3	カムカム教室	オーラルフレイルに特化した介護予防教室。 参加者より健康相談を受けた際に職員が対応。
⑬-10 ⑭-9	★平塚市フレイル予防（食・口腔）の普及啓発及び個別相談事業業務委託	ウエルシア薬局株式会社への委託事業「食の応援ステーション」をウエルシア薬局平塚四之宮店と平塚中原店で12回実施。参加者数165人。
⑬-11 ⑭-10 ⑮-2	健康チャレンジ普及啓発事業・健康チャレンジ地域活動支援事業	・福祉村・高齢者よろず相談センター等の依頼による健康教育を4回実施。 参加者数72人。 ・西部福祉会館と中央公民館でオーラルフレイル予防講座を実施。 参加者数62人。 ・高齢者よろず相談センターの依頼による健康教育を3回実施。 参加者数74人。
⑬-12 ⑭-11	★健診結果説明会	特定健診を受診した結果、保健指導レベル「なし」となった方及び、後期高齢者健康診査を受診された方を対象に健診結果の見方と生活改善方法をお伝えする教室を開催。また、令和6年度に引き続き、健診結果の見方や数値改善のための生活習慣の改善方法について動画を公開。「血圧編」の他に「血糖値編」「脂質編」を追加し、1本あたり7～8分程度、計7本の動画を公開している。
⑬-13 ⑭-12	糖尿病性腎症重症化予防のための病診連携事業	通知後、架電や家庭訪問を行い、協力専門医療機関への栄養相談を勧め、協力専門医療機関に受診が難しい方に対しては、市で腎機能を維持するための栄養指導の実施。 特定健康診査受診者の24人、後期高齢者健康診査受診者の17人に支援を実施。（令和8年4月現在の暫定値）
⑬-14 ⑭-13	糖尿病重症化予防のための健康相談	通知後、架電や家庭訪問を行い、148人に対して生活習慣病予防のための生活習慣の見直しを実施。 うち、健康相談を通じて57人に対して栄養指導・保健指導を実施。
⑬-15 ⑭-14	★健診異常値放置者・治療中断者対策	【特定健康診査受診者】 ・前年度健診及びレセプト情報による異常値放置者及び治療中断者対策について令和8年4月末時点で計525人（健診異常値放置者175人、治療中断者350人）に対して医療機関への受診または保健指導を実施。 ・当該年度健診における高血圧対策は令和6年度対象者の抽出条件を「収縮期血圧160mmHg以上または拡張期血圧100mmHg以上かつ問診項目にて高血圧未治療の者」としていたが、令和7年度対象者の抽出条件を以下のとおり変更し、拡大した。過去のレセプト情報から高血圧の診断がない・過去のこくほ特定健診情報から高血圧受診勧奨値がない者のうち、①Ⅱ度高血圧以上かつ未治療者または②Ⅰ度高血圧かつ未治療者かつLDL-c140mg/dL以上かつ脂質異常症未治療者。 →令和8年4月末時点、80人に対して保健指導を実施することができた。 【後期高齢者健康診査受診者】 高血圧重症化予防として102人、糖尿病性腎症重症化予防として51人に保健指導を行った。 糖尿病性腎症重症化予防として治療中断者17人にも保健指導を行った。

②②-15	骨密度測定	健康課から借用した骨密度測定器1台を高齢者よろず相談センターに貸し出しを行っている。令和7年度は貸し出しを11回行い、参加者数は307人。参加者に骨密度に関する生活・栄養指導のチラシを配布した。
①⑨-1	連携協定企業（中北薬品）との連携	健診結果説明会において減塩に関する啓発資料の配布を行った。
①⑨-2	肥満予防・改善教室	1食分の食事を提供し、適切な量やバランスを確認してもらった。 2クールで20人参加。
②⑩-1	成人対象歯科健康教室	・オーラルケア講座（1回実施、計10人参加） ・大人のためのおし歯予防講座（1回実施、計9人参加） ・歯周病予防講座（1回実施、計16人参加） ・口臭予防講座（1回実施、計18人参加） ・歯科医からきく 健康の秘訣！講座（1回実施、計18人参加）
②⑩-2	地域健康づくり支援事業（歯科）	平塚市視覚障害者協会女性部からの依頼1件13人に対し歯周病・オーラルフレイルに関する講話を実施。
②⑩-3	青年期・壮年期における歯や口腔に関する健康相談	電話相談5件、来所相談1件、生活保護受給者の相談3件実施。
②⑩-4	高齢者の歯や口腔に関する健康相談	カムカム教室等で、参加者より健康相談を受けた際に職員が対応。
②⑪-1	高齢者の低栄養ハイリスク者対策	後期高齢者健康診査結果から低栄養のハイリスク者を抽出し、55人に支援を実施。
②③-1	フレイル対策推進事業	公民館や自治会館等でカムカム教室を19回実施した。参加者数190人。
②④-1	成人歯科健康診査	受診者数693人、受診率5.20%。令和7年度は40歳、50歳、60歳、70歳を対象としたが、令和8年度はさらに20歳及び30歳も対象とする。
②④-2	特定健康診査	特定健診の受診勧奨のため神奈中バス、郵便局のギャラリー、商店街等、市民の目につく場所へポスターの掲示を行った。また、若い世代の受診率向上におけ、集団健診を実施。令和7年度の受診率は35.4%（R8.3月末速報値）であり、前年度の同時期（35.2%）と比較し増加している。
②④-3	後期高齢者健康診査	
②④-4	35歳健康診査	未受診者に対し、9月に受診勧奨はがきを送付。 受診率は3月末現在19.8%であり、前年度同時期と比べ増加している。

(4) ライフステージ別 取組の結果から指標達成につながる成果、課題及び次年度の計画

ア 妊娠期・乳児期・幼児期(1-(1)~(7))

課	取組の結果から 指標達成につながる成果	次年度の課題	次年度の計画	次年度の 事業展開
健康課	妊娠期から乳児期及び幼児期の正しい食習慣を身につけるためのきっかけづくりを継続することができた。	妊娠期から乳児期及び幼児期の正しい食習慣の普及啓発。	各種事業での相談や集団指導等による普及啓発の継続。	現状の規模で継続
保育課	- 相談事業では、保護者に対し、食に対する不安を軽減しながら、食が与える影響を理解してもらい、不安や悩みの解消を図った。 - 保育所等での食育は、栄養士が園児に直接伝えることで、食べることの必要性や楽しさを育むことができた。	講座中、講座後の個別相談の時間が限られてしまう。	- 今後も食育講座やクッキング等を継続し、食育の普及啓発に努める。 - より多くの個別相談に対応できるように、時間配分に配慮する。 - 地域子育て支援拠点でも必要に応じて育児講座の実施や相談を行う。	現状の規模で継続

イ 学童期・思春期(1-(8))

課	取組の結果から 指標達成につながる成果	次年度の課題	次年度の計画	次年度の 事業展開
健康課	思春期講座の取組により、思春期の生徒に、適正体重の大切さや成長期に摂って欲しい栄養、朝食を欠食せずバランスの良い食事を心がけるきっかけとすることができた。	思春期の生徒に、適正体重の大切さやバランスの良い食習慣の普及啓発。	思春期講座の食生活に関する講話部分について、より効果的な内容となるように検討する。	現状の規模で継続
学校給食課	- 通年での中学校給食提供により、中学校における学校給食を生きた食育教材とした体験の充実が図られた。 - 学校給食センターを活用した食育の充実が図られた。	学校給食センターを活用した食育の普及啓発を実施する。	- 学校給食の提供 小学校 187 回、中学校 1, 2 年 170 回、3 年 150 回 - 食に関する指導 小 28 校・中 15 校 回数未定 - 学校給食センターを活用した食育の普及	現状の規模で継続
学務課	健康や食事について専門的な指導・助言を受けることができ、日々の食事摂取の大切さへの理解を深めることができた。	欠席者への啓発。	欠席者には当日配布資料の送付を継続する。	現状の規模で継続
中央公民館	- 親子料理教室やお菓子作り教室など、児童や親子を対象とした事業の取組により、料理を通じた親子間のコミュニケーションの促進や食の楽しさを伝えることができた。 - 地域の商店等と連携した料理教室の取組により、食や地域に対する理解を深めることができた。 - 適正な食習慣に関する健康教育・普及啓発に関する事業の取組により、適正な食習慣の学びを深めることができた。	特になし。	引き続き親子を対象にした料理教室等を継続していく。	現状の規模で継続

ウ 青年期・壮年期、高齢期（Ⅰ-（Ⅸ）～（Ⅹ））

課	取組の結果から 指標達成につながる成果	次年度の課題	次年度の計画	次年度の 事業展開
健康課	連携協定締結企業との連携により、体験型の講座や教室を実施し、食生活を振り返るきっかけ作りができた。	若い世代に適切な食生活について普及啓発する。	企業やボランティア団体と連携した周知の継続。	現状の規模で継続
市民 情報・ 相談課	幅広い市民を対象に食に関心を持つきっかけ作りができた。	幅広い市民に食・環境・日常生活における消費生活に関心を持ってもらう。	消費生活展での展示の継続、くらしの講座（食品添加物）の開催。	現状の規模で継続
保険 年金課	・重症化予防事業では通知した対象者に対し、家庭訪問や電話での保健指導を実施することで食事をはじめとした生活習慣の改善の保健指導を実施することができた。 ・オーラルフレイル予防のためのカムカム教室等の実施により、高齢者自身の状態像が見える化し、気づきと介護予防活動への行動変容を促すための普及啓発活動ができた。	・重症化予防事業の事業利用率の向上と対象者の検査値改善及び行動変容に繋げること。 ・高齢者がより早期に自身のオーラルフレイルに気づくこと。 ・40～50歳代の受診率の向上。	・重症化予防事業における事業効果の周知。 ・事業対象者へ健診結果及び起こり得るリスクについて説明、分かりやすい指導媒体の活用。 ・カムカム教室等を継続して開催する。 ・こくほ特定健診の集団健診は2回から4回へ拡充して実施。	拡大して継続
中央 公民館	体験だけでなく、講義を交えることで健康に対する理解をより深めることができた。	参加者増加に向けた周知。	老人会等、高齢者団体に声掛けを行う。	現状の規模で継続

2 地域の特性を活かした食育の推進

(1) 健康行動と指標、目標値及び進捗

健康行動	指標	管理番号	現状値	目標値		R6 の値	R7 の値	担当課
				中間値 (R10)	最終値 (R15)			
地元産農水産物を活用しよう	地元の農水産物を優先的に使用する者の割合	2-(1)	48.5	53	57	—	—	農水産課
	学校給食における地場産給食の実施回数	2-(3)	4	5	6	4	6	学校給食課
食育に関心を持とう	栄養教諭による食に関する指導実施校数	2-(4)	7	9	15	10	17	教育指導課
ボランティアと食育に取り組もう	食生活改善推進員の生活習慣病予防に関する普及を含めた活動回数	2-(2)	100	120	増加	199	177	健康課

(2) ライフステージ別 市の主な取組及び事業

ア すべてのライフステージ(①～③)

指標	管理番号	市の取組	事業番号	事業	担当課
地元産の農水産物を優先的に使用する者の割合	2-(1)	①地産地消の推進	①-1	湘南ひらつかふれあいマーケット（朝市）	産業振興課
			①-2	市内直売所	農水産課
			①-3	地場産品 PR イベント（軽トラ・ファーマーズ、地どれ魚直売会、ベジ太訪問事業など）	農水産課
			①-4	ふれあい給食授業	学校給食課
		②農水産業に理解を深める体験事業	②-1	農業体験（苗植え、収穫体験等）	中央公民館
②-2	農業体験（野菜づくり体験教室、米づくり体験事業）		農水産課		
食生活改善推進員の生活習慣病予防に関する普及を含めた活動回数	2-(2)		②-3	ヒラメの稚魚放流	農水産課
		③市民と一体となった食育の充実、市民の食育活動への支援	③-1	食生活改善推進員による普及啓発事業	健康課

イ 乳児期・幼児期・学童期・思春期(④～⑥)

指標	管理番号	市の取組	事業番号	事業	担当課
学校給食における地場産給食の実施回数 栄養教諭による食に関する指導実施校数	2-(3)	④学校・保育所等による給食等を通じた行事食など食文化の伝承	④-1	食教育と連動した給食の提供	学校給食課
			④-2	給食やクッキング等を活用した行事食等の伝承	保育課
	2-(4)	⑤栄養教諭及び学校栄養職員等による食に関する指導の充実	⑤-1	食教育推進担当者会	教育指導課
			⑥-1	食教育推進担当者会	教育指導課

(3) ライフステージ別 取組の結果

事業番号	事業	取組の結果
①-1	湘南ひらつかふれあいマーケット(朝市)	開催回数:計10回開催 年間来場者数:7,216人
①-2	市内直売所	農水産業者の直売イベント「軽トラ・ファーマーズ」や「地どれ直売会」等にて、平塚産農水産物のPRを実施した。 地どれ魚直売会は12回開催され、2,650人の来場があった。 ・ベジ太訪問事業 市内幼・保・こども園、小学校にて実施し、食育活動の推進を図った。 訪問数:9園(幼稚園、保育園、こども園 計679人)、 5校(小学校 計355人)
①-3	地場産品 PR イベント(軽トラ・ファーマーズ、地どれ魚直売会、ベジ太訪問事業など)	
①-4	ふれあい給食授業	実施回数:13回(農業8回、漁業4回、畜産1回)
②-1	農業体験(苗植え、収穫体験等)	野菜の苗植えや収穫体験等の事業を実施 15事業 延べ517人
②-2	農業体験(野菜づくり体験教室、米づくり体験事業)	野菜づくり体験教室(春・秋)、米づくり体験事業を実施した。
②-3	ヒラメの稚魚放流	港小学校5年生によるヒラメ稚魚放流及び乗船体験を実施 (放流数:20,780尾)
③-1	食生活改善推進員による普及啓発事業	・自主事業 役員会、定例会、班長会、各地区での教室の開催にあたり、助言指導を実施。 ・委託事業 母子保健事業、地域保健・健康づくり事業における地域公民館等での教室の実施にあたり、献立の監修などを実施。
④-1	食教育と連動した給食の提供	学校給食における地場産給食の実施回数 小中学校 各6回
④-2	給食やクッキング等を活用した行事食等の伝承	・給食における行事食の伝承 そうめん汁(7月七夕)、おはぎ(9月、3月 彼岸)、南瓜の含め煮(12月 冬至)、お節料理(1月 正月)、ちらし寿司(3月 ひなまつり)等 ・和食の伝承:食育講座の実施 出汁について(出汁の取り方、試飲、和食について)
⑤-1 ⑥-1	食教育推進担当者会	食教育推進担当者会(令和7年6月19日) ・各校における食育の推進を図るため、食教育推進担当者、栄養教諭及び学校栄養職員を対象とした食教育推進担当者会を実施した。 ・各校の食教育推進担当者が中心となり、各校で食育全体計画を作成し、栄養教諭及び学校栄養士等と連携して、食に関する指導(食べ物の働き、カルシウムの働き、食品ロス削減、献立作成等)を行った。

(4) ライフステージ別 取組の結果から指標達成につながる成果、課題及び次年度の計画

ア すべてのライフステージ(2-(1)~(2))

課	取組の結果から指標達成につながる成果	次年度の課題	次年度の計画	次年度の事業展開
健康課	委託事業や協力事業など、さまざまな年代を対象とする教室開催やイベントへの参加により、普及啓発をすることができた。	ボランティア活動に関する情報発信や会員数の維持に向けた活動内容の充実。	若い世代も含めた地域住民に対する普及啓発。	現状の規模で継続
産業振興課	11月・12月は会場の都合により開催中止となったが、1月から会場を変更し再開したことで、地場産業の紹介活動は継続して実施できた。	会場および開催日の変更に伴う顧客への再周知と出店店舗数の拡大。	各出店店舗の認知度の向上を目指した情報発信を強化。	現状の規模で継続
中央公民館	体験を通じて地元農産物に対する理解を深めることができた。	特になし。	引き続き、地域との連携を図り、継続して実施していく。	現状の規模で継続
農水産課	取組により、市民に対して、平塚産農水産物の興味関心を高めることにつながった。	平塚産農水産物の活用促進。	各事業を継続するとともに、平塚産農水産物についての情報提供の場を拡充する。	現状の規模で継続

イ 乳児期・幼児期・学童期・思春期(2-(3)~(4))

課	取組の結果から指標達成につながる成果	次年度の課題	次年度の計画	次年度の事業展開
学校給食課	・地場産給食(神奈川産品デー)を計画的に実施した。(小中学校各5回) ・平塚産食材を使用した「あったかひらつか給食」を実施した。(小中学校各1回)	地場産食材を優先使用としているが、食材の価格高騰や気象条件による不作等により食材の確保が課題である。	地場産食材の優先的使用を継続する。	現状の規模で継続
教育指導課	・各校の食教育推進担当者、栄養教諭及び学校栄養職員向けに食教育推進担当者会を開催することができ、国・県・市の最新の情報提供を行うことができた。 ・グループ協議においてテーマ「学校給食を活用した食の指導の在り方について」を設けることで、各校の具体的な取組を共有することができた。 ・グループ協議を通じて、各校の食育全体計画を共有したり、食育のための資料提供や教科ごとの食育実施内容等について、栄養教諭や学校栄養職員からの助言を受けることができた。	・昨年度から中学校での学校給食も始まっていることから、「生きた教材」としての学校給食の活用の仕方について、より理解を深めるとよい。 ・各校の食育全体計画の見直しを図るとよい。	食教育推進担当者会の内容をより充実させるため、会議の内容を拡充して、講師による講演を加える。	現状の規模で継続
保育課	園児にとって身近な給食を通して、日本の伝統的な行事食に込められている家族の健康や豊作を願う意味、旬の食材等を伝えることができた。	物価高で食材料の確保に配慮が必要。	・今後も、食育計画に基づき、日本の伝統的な行事食や、和食の伝承のための食育講座を継続し、食育の普及啓発に努める。 ・物価高による食材料の流通情報に配慮しながら、行事食の提供を継続する。	現状の規模で継続

